

大嘗祭

いよいよ今月十四日午後六時半から十五日未明にかけて、畏くも聡明聖知にして天徳に達する天皇陛下におかせられましては、御代の安寧と五穀豊穡を祈念して大嘗祭を御斎行あそばします。毎年十一月二十三日に、その年の新穀を皇祖天照大御神さまをはじめ、八百萬神々にお供えし感謝を捧げる新嘗祭が、宮中初め全国の神社で斎行されますが、なかでも、天皇陛下が御即位後はじめで行われる新嘗祭が、この大嘗祭であり、天皇陛下御一代に一度きりの祭祀で、日本国中の数ある神事の中でも最高の重儀とされます。

悠紀と主基

この大嘗祭においては、古式に則り、太古の昔さながらに特別に造営された悠紀殿、主基殿を中心とした大嘗宮において神事が斎行されます。この悠紀とは東の日の出の「行き」、主基とは西の日の入りの「過ぎ」の意味もあるといわれており、大嘗祭は「悠紀殿供饌の儀」「主基殿供饌の儀」を中心に、それぞれ二回行われます。

今次の大嘗祭においては、静岡あたりから東日本を悠紀地方、西日本を主基地方とし、それらの中から亀卜で選ばれた土地のお米が献上され、今次の悠紀地方は栃木県、主基地方は京都府が選ばれ、それぞれ悠紀殿、主基殿にお供えされます。

御神饌

また、お米以外にも神饌として日本国中の産物が集められ、それらは庭積机代物と呼ばれます。大阪からはクリ、ミカン、海老芋、干し椎茸、ちりめんじゃこが献納されています。

これら神饌は、大嘗祭に至るまでに厳重にお清めされたお供え物ですので、お運びする間も神さまの如く丁寧に献納され、大嘗祭においては天皇陛下御親ら、実に一時間以上もの時間をかけて、大切に、心を込めて、大御神さまに奉られます。新穀を神々に奉る祭祀は、古くは天照大御神さまがされていた事と『記紀』には伝えられており、これは大嘗祭を通じて天照大御神さまの御手振り、を今の世に再現しているともいえるでしょう。

神人ともに食す

神饌を奉られた後、天皇陛下は御告文と呼ばれる祝詞のようなものを奏上になられ、その後、神饌をお下げし、撤饌(おさがり)として、悠紀殿、主

基殿それぞれで、お召上がりになられ、大御神さまと食事を共にされます。これは古代日本人の食事を共にするという事が和を生み出す事に大切とされていた事の名残ともいわれています。身近なところでは、お正月のおせち料理も年神様と一緒に食事を共にするという意味があります。

御装束

この大嘗祭においては、天皇陛下は純白の特別な御装束御祭服を身に纏われます。このうち一番表側のものを、帛御袍といい、純白生織の絹地で奉製されており、これは最も清浄な服とされ、天皇陛下以外が着装する事は許されません。また皇后陛下も同じく純白の装束をお召しになられます。その他の掌典や采女らも白い装束を纏い、清浄第一の祭祀といわれる由縁です。平成度の大嘗祭に参列された方の中には、深夜の暗がりの中、大阪深江の菅笠の中、松明に照り出された白く輝く陛下の御姿はテレビなどの映像ではわからない、大変神秘的なものであったと伝え聞かれます。

大嘗祭後

その一世一代の重儀をお務めになられた後、天皇陛下は、公的にも神靈的にもまさしく第一二六代の天皇陛下となられ、大饗と呼ばれる祝宴が開かれます。その後、伊勢の神宮に御親謁になられ、各御陵を参拝された後、宮中三殿での御即位大礼の諸行事を納められた事を奉告されます。

今月の暦

- 【祭礼】 大嘗祭二日前大祓十二月二十日：十六時 御旅社にて 大嘗祭当日祭十四日：御本社 神事のみ
- 【節気】 立冬八月：秋が極まり、いよいよ冬の気配が立つ頃 小雪廿二日：寒い地域では雪が降り始める頃
- 【雑節】 亥の子十日：旧暦十月の初亥の日。無病息災。炬燵の日 七五三(十五日)：子祝 三歳男女、五歳男子、七歳女子
- 【大安】 十一月四日、十日、十六日、廿二日、廿七日
- 【祝日】 文化の日(三日)、勤労感謝の日(廿三日)

旬

- 【野菜】 春菊、ネギ、山芋、牛蒡、ホウレン草
 - 【果物】 リンゴ、クリ、厚生ミカン、キウイ
 - 【魚介類】 秋刀魚、カキ、ホッケ、銀鱈、クエ
 - 【その他】 きこの類、菊、山茶花、柊の花、木瓜
- 大地に冬の気配が漂い、下旬からは紅葉が目にとまります。黄色く染まったイチヨウを見ながら銀杏を酒のアテに晩秋を過ごす贅沢さは、日本人で良かったと思う瞬間でしょう。

網敷天神社SNS、地図サイト

